

## 第37回 向日市上下水道事業懇談会 議事録

日時	: 令和2年2月17日(月) 午前9時から正午まで
場所	: 向日市役所 防災拠点
出席者	: (委員) 8名 (事務局) 上下水道部長他9名
傍聴	: 3名

### 1 内容

#### 【水道料金改定について】

#### 事務局説明

#### ○質疑等

- 委員 府営水道の料金改定によって、どの程度値下がりしたのか。
- 事務局 府営水道については、料金改定の経過措置が設けられており、令和2、3年は1m<sup>3</sup>あたり約3円の値下げとなる予定。令和4年度以降については、1m<sup>3</sup>あたり約5円の値下げとなる。
- 委員 資料で示されている従来の水道料金表の例では、口径20mmで2か月60m<sup>3</sup>使用した場合は、税抜き10,060円となっているが、新料金案で試算するといくらになるか。
- 事務局 同じ条件で計算すると、9,430円となる。
- 委員 府営水道の料金改定を受けて、本市の水道料金をどの程度変えるのか。
- 事務局 今回示した本市の料金改定案では、府営水道の料金改定による減額幅よりも大きく値下げを行うこととしている。
- 委員 市としては、水道管の耐震化や老朽管の更新を今後も進めていかなければならない。また、今般災害が多発する中で、安定的に水を供給することが強く求められている。水道管の更新など将来的な負担を鑑み、府の減額幅の全てを反映させず一部に留める考え方もあるのではないか。
- 事務局 これまでのところ、市北部地域の宅地開発などによって給水人口が増加していることや、今後予定されている企業誘致により、将来的な水需要の増加が見込まれていることから、市民の負担を減らすことを優先に考えて今回の案を作成した。
- 委員 水道料金の値下げ自体は、市民にとっては歓迎されることだと思う。一方で将来的な水需要の増加による増収については、安易に見込まずに、シビアに判断し数値に反映させてほしい。
- 委員 水道料金による収入は減るが、耐震化などの事業に影響はあるか。
- 事務局 耐震化については、平成27年度から基幹管路を中心に進めているところである。財源として建設改良積立金もあり、今後も耐震化は進めていく。
- 委員 本来、料金改定は、耐震化等の計画やスケジュールといった見通しと併せて議論を

行っていくべきと考える。今後、議論できる場が設けられると考えてよいか。

事務局 前回の料金改定時や、経営戦略を策定する際にも懇談会で議論していただいた。今回、料金を改定することで、計画内容の精査をするためにも、議論していただきたいと考えている。

委員 水道管の口径は、個人の使用者であれば20mmの家庭が多く、事業者であれば40mm以上が多いと考えてよいか。

事務局 その通り。

委員 改定後の料金案によると、一般家庭の使用者が多い20mmでは値下げになっているが、口径の大きいところでは値上げになっている部分がある。一般家庭の使用者に対して、値下げの効果が際立つように設定されたものと理解する。

委員 今回水道料金を改定した場合、次回の改定はいつ頃になるか。

事務局 府営水道が5年ごとに内容の見直しをしているので、本市も概ね5年を目途に見直しを図りたいと考えている。

委員 先ほど府営水道においては、令和2年から3年までは経過措置が設けられているということだったが、令和4年にもう一度料金改定をするのか。

事務局 令和4年度以降の府営水道料金を想定した料金案になっているので、令和4年にもう一度値下げする予定はない。

委員 繰り返しになるが、水道料金を値下げするとしても、将来にわたって安定的に水道供給が行われることが何より大事なことである。それを踏まえた水道料金の設定について考えるうえでも、水道管の更新や耐震化の計画やスケジュールというものを改めて示してほしい。

事務局 資料を用意し、今後懇談会にお示ししたいと考えている。

委員 今回の懇談会の内容も公開されるのか。

事務局 これまでと同様、議事録を作成し、ホームページで公開する予定である。

委員 どのような形であれ、今回の懇談会で行われた議論が、議会等の政策決定の場に反映されることが望ましい。

事務局 日程の都合もあり、議会前に公開することは難しいが、今回の議論の内容については、市長に報告させていただく。

委員 今後は、この懇談会の意見を提言として出すことができれば、会としての意義もより向上していくものとする。

## 【いろは呑龍トンネル南幹線関連事業の進捗について】

### 事務局説明

#### ○質疑等

委員 いろは呑龍トンネル完成による浸水被害の低減は素晴らしいものだと思う。しかし、これから先災害が起こりえないと思いついて防災意識が欠如することがないか危惧し

ている。市民に対する防災の意識づけや、府や流域市町との連携など、今後も続けてほしい。

委員

昨今、これまでの想定雨量を超えるような豪雨等の災害が、頻繁に起こり得る状況になってきている。現在の浸水対策が十分なのか、改めて検討する必要があると強く感じている。市として激化する災害にどう対処するか考えるとともに、どこまでの浸水被害を防げるのかということの市民への周知を推進してほしい。